

NZ84 タンクインスペクタⅡ 移動貯蔵タンク定期点検装置

取扱説明書 (2/2)

- ・検査プログラム
- ・事業所コード表プログラム

目次

1. 概要	1	●成績表作成への移動画面	18
2. プログラムの構成と特徴	2	●終了操作画面	19
3. 動作環境	3	6-2. 成績表作成の操作手順	20
4. インストールとアンインストール	4	各画面説明（成績表作成の関係）	
5. プログラムの起動と終了		●成績表作成画面	22
5-1. 起動	4	●様式第32号設定画面	23
5-2. 終了	4	●様式第32号画面	24
6. 検査プログラム		●様式第33号画面	25
6-1. 特徴・機能	5	●様式第34号画面	26
各画面説明（点検フローの関係）		6-3. 保存された成績表からの操作手順	27
●メニュー画面	6	各画面説明（保存された成績表の関係）	
●準備説明画面	7	●成績表ファイル画面（保存された成績表）	28
●注意事項画面	8	●様式第32号設定画面（保存された成績表）	29
●初期設定画面	9	●様式第32号画面（保存された成績表）	30
●予備試験画面	10	●様式第33号画面（保存された成績表）	31
●予備試験データ画面	11	●様式第34号画面（保存された成績表）	32
●予備試験ゲージ圧データ画面	12	7. 事業所コード表プログラム	
●予備加圧画面	13	7-1. 特徴・機能	33
●加圧処理画面	14	各画面説明（事業所コード表の関係）	
●漏れ検査画面	15	●事業所コード表画面	34
●漏れ検査データ画面	16	●事業所コード表入力画面	35
●漏れ検査ゲージ圧データ画面	17	サービス先、メモ	36

1. 概要

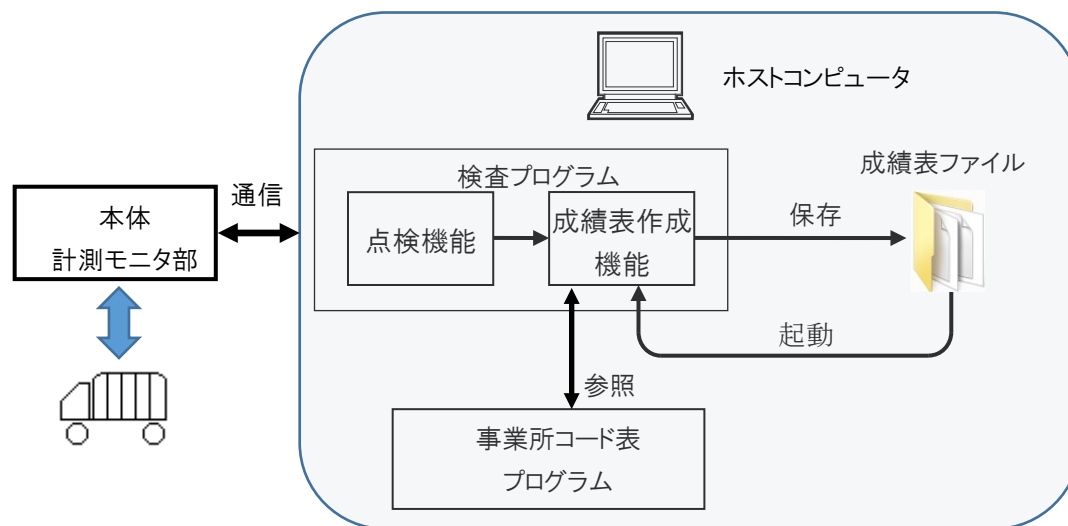
NZ84タンクインスペクタⅡは、複数車両同時点検プログラム(以下、検査プログラム)と事業所登録コードプログラム(以下、事業所コード表プログラム)の2つのプログラムで構成されています。

- ①検査プログラムは、タンク槽の予備試験～加圧処理～漏れ試験と成績表作成を行なうためのプログラムです。複数車両を検査したい場合には、槽数の合計が9以内ならば、同時に検査することができ、トータルの試験時間が大幅に短縮できます。
- ②事業所コード表プログラムは、危険物施設の事業所名と所在地をコード番号に対応させ、登録するためのプログラムです。一度、事業所コード表に登録しておけば、成績表作成の時、コードNo.を指定するだけで事業所名や所在地が入力でき、効率的です。

2. プログラムの構成と特徴

検査プログラムと事業所コード表プログラムは、ホストコンピュータ上のプログラムで本体の計測モニタ部と通信を行い動作しています。下図のようなプログラム構成になっています。

点検終了後検査プログラムで作成した成績表は、ファイルとして保存出来ます。保存されたファイルは、検査プログラムと関連付けられており、ファイル名を指定して起動することにより検査プログラムの成績表作成機能が動作し、成績表の閲覧、修正、印刷等が行えます。



【プログラム構成】

- 検査プログラムでは、複数車両の同時検査と、これに対応した成績表を作成することが出来ます。この為、試験時間の大幅な短縮が可能です。
- 各車両の槽数の合計が9つ以内の車両を同時検査出来ます。例えば各車両の槽数が1槽の時、最大9車両同時に検査が行なえます。
- 予備試験から漏れ検査まで各車両同時に全自動検査が可能です。ある車両が加圧異常、漏れなどが発生した時、特定の車両のみ試験を行ったり、特定の車両のみ排除して試験を行なうことが出来ます。
- 検査プログラムでは、1車両毎に報告書提出先、危険物施設、検査済証などの様式第32号に必要な項目を設定し、1車両毎に成績表作成を行います。その後、1車両毎にデータ保存、全プリントを行います。
- 成績表を作成する場合、事業所コード入力の機能があります。危険物施設の事業所名、所在地をコード No.で簡単に入力することが出来ます

3. 動作環境

本プログラムの動作環境は、下記となっています。

- ・コンピュータ: Windows7、Windows10、CD-ROMドライブ搭載
- ・プログラムのインストール; インストールは、原則として弊社にて行います。
(通信機器ドライバの設定、本体との動作確認の為)
- ・通信機器のポート設定; USB と RS-485 変換器(USB-485 ナショナルインスルメンツ社製)のポートは、“COM4”を使用しています。他機器での COM4 ポートの使用は出来ません。コンピュータと USB-485 は、インストール時の対の機器で使用ください。

4. インストールとアンインストール

本プログラムのインストール方法について説明します。

本プログラムのインストールには次に示すCD-ROMを使用します。(インストールは、原則として弊社にて行います。)

タンクインスペクタ検査プログラムセットアップ用CD-ROM

- ① セットアップ用CD-ROMにある SETUP.exe を実行して下さい。まだ本プログラムがセットアップされていない場合はインストーラとして、既にセットアップ済みである場合はアンインストーラとして動作します。
- ② SETUP.exe 実行後は、表示されるメッセージに従い、順次インストール作業を進めて下さい。
- ③ 本作業によりインストールが正常に終了した場合、フォルダ C:¥Program Files¥タンクインスペクタ¥に本プログラムが格納され、スタートアップメニューにプログラム起動のためのショートカットが登録されます。

5. プログラムの起動と終了

・検査ソフトは、ProgramFile 内の“タンクインスペクタ”フォルダに格納されています。

○検査プログラム： 漏れ検査ソフト （成績表作成ソフト内包）

○事業所コード表： 事業所コード表作成プログラム

・検査プログラムをマウスで選択すると漏れ検査ソフトが起動しメニュー画面が表示されま。

・検査結果は、「マイコンピュータ/Cドライブ」の中の“タンクインスペクタ”フォルダに保存されます。

・成績表を保存したときは、ハードディスク中の検査プログラムより作成した名前のファイルをダブルクリックすることで、成績表を表示したりプリントアウトを行えます。

5-1. 起動

スタートアップメニューより「検査プログラム」または「事業所コード表」を選択することにより、該当するプログラムが起動されます。

5-2. 終了

各プログラムの指示に従い、終了の操作を行なって下さい。終了の操作が正常に行なわれない場合、以後プログラムが正常に動作しなくなる可能性があります。

本プログラムの動作中に他のソフトウェアを動作させた場合、本プログラムの動作に支障をきたす場合があります。

- 本プログラムが動作している間は、極力他のソフトウェアは起動しないで下さい。特にスクリーンセーバーやウィルスチェックプログラムは、動作させないで下さい。
- 本プログラム動作中は、コンピュータがスリープ状態にならない様に設定して使用ください。試験中にスリープ状態になると正常な試験が行われません。

6. 検査プログラム



検査プログラムを起動すると、「メニュー画面」が表示されます。画面の点検フローの各ボタンをクリックすることにより各画面が表示されます。視覚的に解り易い操作となっています。

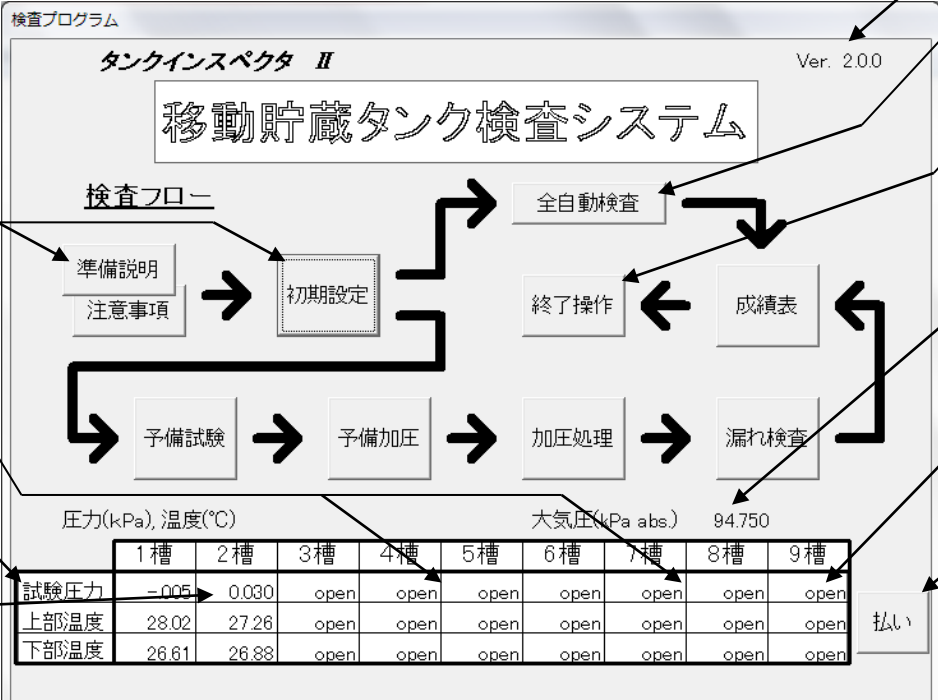
各画面の詳細な機能・操作については、各画面の説明書を参照ください、

6-1. 特徴・機能

- 複数車輻の場合、初期設定で車輻 No.の設定後は、「メニュー画面」、「予備試験画面」、「予備加圧画面」、「加圧処理画面」、「漏れ検査画面」で各車輻の区切りは、太線にて分けられます。
- 同一の加圧・試験において、加圧・試験をする車輻としない車輻を設定し動作させることができます。
- 加圧・試験の異常の車輻のみ修理後、その車輻のみ試験を行ったり、異常の車輻のみ以後の加圧・試験の動作を排除することができます。
- 予備試験データ、漏れ検査データの各槽詳細データは、1度試験を行なうと2度目にその槽の試験を開始するまでデータは保持しています。
- 漏れ検査においては、各車輻毎に基準槽を判断し、車輻毎に漏れの判定を行いません。
- 全自動検査は、各加圧・試験において、全ての車輻がOKの時、自動的に以後の検査を継続します。

● メニュー画面

- ・ 検査プログラムの初期画面です。
- ・ 初期設定が終了後に各車両毎に槽番号が太線で分けられます。
- ・ 各機能のボタンをクリックすることにより、ボタン名と同一の名前の画面に移動します。
- ・ 1槽から9槽までの圧力センサ、上部温度と下部温度を常時計測し、表示されています。また、大気圧、外気温の値も表示されています。各センサの計測・表示は、約2秒毎に行なわれます。計測・表示中はカーソルが“”から“”となりますので、その間は、ボタンをクリックしても受けません。
- ・ 検査が全て終了後、電源を OFF する際は“終了操作”のボタンをクリックし、検査プログラムを終了させて下さい。
- ・ 全自動検査ボタンをクリックすることにより、途中の試験判定が NG または加圧異常など発生しない場合、予備試験→予備加圧→加圧処理→漏れ検査を自動で行ないます。



■ 各機能ボタン
各ボタンをクリックすることにより、それぞれの機能の画面へ移行します。

■ 車輻区分け線
複数車輻点検の時、車輻毎に太線で分けられます。

■ 試験圧力、上部・下部温度
各槽の圧力(ゲージ圧)、温度センサの値

■ “-”表示
-の値の時は小数点の前に0は付きません。

■ プログラムバージョン表示
Ver. 2.0.0

■ 全自動検査ボタン
予備試験から漏れ検査まで自動で行なわれます。

■ 終了操作ボタン
全検査終了後、このボタンをクリックし、画面指示に従いプログラムを終了させます。

■ 大気圧
現在の大気圧を表示しています。

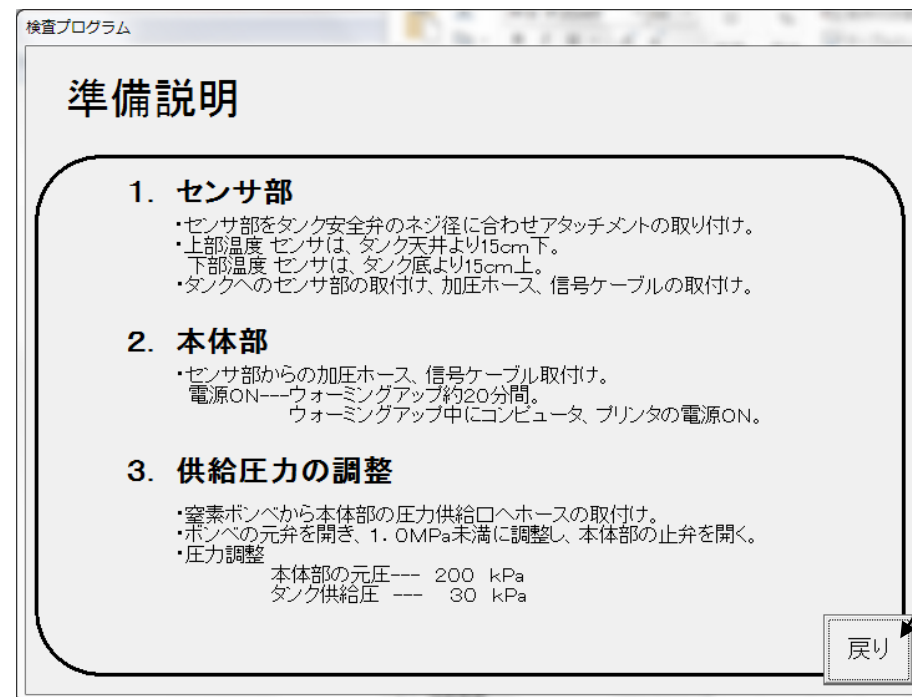
■ センサが接続されていない時は各表示は、“open”となります。短絡されている時は“short”となります。

■ 払いボタン
各槽の圧力を払う時クリックします。
元弁……クローズ(OFF)
排気弁……オープン(OFF)
各槽弁……オープン(ON)

	1槽	2槽	3槽	4槽	5槽	6槽	7槽	8槽	9槽
試験圧力	-005	0.030	open	open	open	open	open	open	open
上部温度	28.02	27.26	open	open	open	open	open	open	open
下部温度	26.61	26.88	open	open	open	open	open	open	open

● 準備説明画面

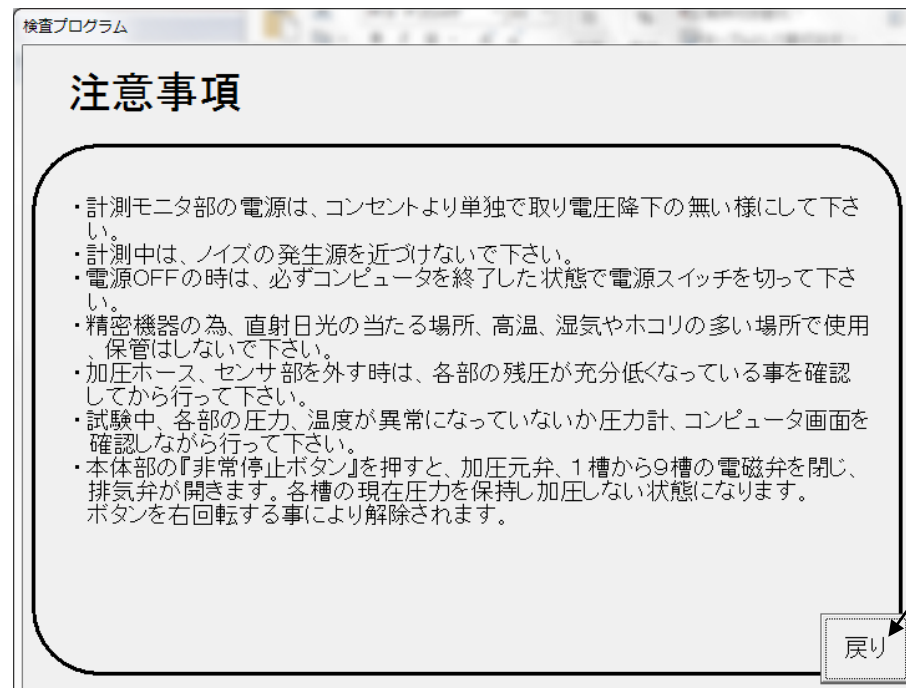
- ・ 画面の説明に従い、準備を行ってください。



- 戻りボタン
メニュー画面へ戻ります。

● 注意事項画面

- ・ 画面の説明に従い、注意事項守り点検作業を行ってください。



- 戻りボタン
メニュー画面へ戻ります。

● 初期設定画面

- 全体での試験槽数と1車輦、複数車輦点検の選択をします。複数車輦の時は、各槽に対応した車輦 No.を設定します。また、各槽の容量、液種を入力します。タンクの最大容量は、全部の槽の容量を自動で合計し表示します。
- “試験槽”ボタンの黒色の槽が試験対象の槽です。

- この画面で設定された内容は、成績表に反映されます。
- 各試験中に漏れ異常などで、以後の試験で試験槽より異常の車輦を除くことが出来ます。除く時は、「初期設定画面」“試験槽”ボタンの操作で除いて下さい。

■ 点検槽の選択ボタン

1槽から9槽までの“タンクピクチャー”ボタンをクリックすることにより、試験槽を選択します。
(この画面では、7槽を選択)

■ 車輦 No.入力

車輦 No.を小さい順に設定します。各車輦の槽 No.は、NZ84 の槽 No.1 から小さい順に割り当てられます。

■ 各試験槽ボタン

選択された槽数の中で試験する槽、しない槽をクリックして設定出来ます。槽数全部を同時試験の時、操作する必要はありません。

■ 容量の入力

“数字”キーで容量を入力し、“エンター”キーを押します

■ * * *

試験しない槽の表示

検査プログラム

初期設定

点検年月日
2017.09.05

槽数 タンク最大容量 K ℓ

1車輦検査
 複数車輦同時検査

車輦数

車NO.	試験槽	容量 K ℓ	液種
**	1槽	4	ガソリン
**	2槽	2	軽油
**	3槽	**	**
**	4槽	**	**
**	5槽	**	**
**	6槽	**	**
**	7槽	**	**
**	8槽	**	**
**	9槽	**	**

1槽

6槽

2槽

7槽

3槽

8槽

4槽

9槽

5槽

1.	ガソリン
2.	軽油
3.	灯油
4.	A重油
5.	B重油
6.	
7.	
8.	
9.	

■ 1車輦・複数車輦ボタン

1車輦か複数車輦点検かを選択します。

■ 車輦数表示

複数車輦同時点検の時、車輦数を表示

■ 液種の入力

右表の液種の数字を入力し、“エンター”キーを押すことにより、液種の文字に変換されます。

■ 液種

1～9の数字に対応した液種を任意に変更出来ます。使用する液種を予め入力しておく、便利です。

■ 戻りボタン

メニュー画面へ戻ります。

● 予備試験画面

- ・ ガソリン等、蒸気圧の高い物質を貯蔵していたタンクにおいては、放置時間により安定状態に入ったかどうか確認します。
- ・ 【判定条件】
タンク室を密封し、加圧せずに圧力変化を計測し、10分間の温度補正圧力降下量が±0.02kPa 以内であればOK とします。

$$\Delta P_{10} = P_{10} - P_c \cdot \frac{T_{10}}{T_c}$$

- △P₁₀ : 10分間の温度補正圧力降下量 kPa
- P₁₀ : 10分前の圧力測定値+大気圧 kPa abs
- P_c : 確認時の圧力測定値+大気圧 kPa abs
- T₁₀ : 10分前のタンク上部及び下部の平均温度 測定値+273.15° K
- T_c : 確認時の平均温度 測定値+273.15° K

- ・ 試験時間
開始ボタンをクリックすることにより、10分間の試験を行ないますが、判定がNGの槽に関しては、引き続き最大30分間まで試験を継続します。
- ・ 複数車両の時、槽番号が太線で区分けされています。
- ・ “MANU”にして各槽ボタンで試験する槽の選択をし、試験を実行させることができます。

- 計測圧力
大気圧センサより補正された槽内の現在の絶対圧力
- 圧力降下量
試験開始時点(10分前)と現在との比較
圧力降下の時……“+”
圧力上昇の時……“-”
- 各槽ボタン
MANU 状態で試験槽の選択ができます。
- 中止ボタン
試験を途中で中止する時、クリックします。
- プリントボタン
この画面をプリントアウトする時、クリックします。
- 各機能への移行ボタン
MANU 状態のとき操作可能

検査プログラム
2017.09.05 14:29

2

[予備試験]

大気圧 kPa abs 94.780

試験時間 15分

各槽圧力降下量 (kPa)

槽番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
計測圧力 kPa abs	94.780	94.810	=====	=====	=====	=====	=====	=====	=====
圧力降下量 kPa	0.001	0.001	=====	=====	=====	=====	=====	=====	=====
判定	OK	OK	=====	=====	=====	=====	=====	=====	=====
詳細データ	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙

中止

プリント

初期設定 予備試験 予備加圧 加圧処理 漏れ検査 成績作成

全自動 AUTO MANU

開始 戻り

- 現在の年月日、時刻の表示
- 試験総数
初期設定で設定した値を表示
- 試験しない槽の表示
- 詳細データボタン
試験終了後又は中止後、MANU 状態でこのボタンをクリックすると各槽10分間の予備試験トレンドデータの画面に切り換わります。
- 試験開始ボタン
- 戻りボタン
メニュー画面へ戻ります。
- 全自動/AUTO/MANU ボタン
全自動状態で“開始”すると以後、漏れ検査まで自動で行なえます。AUTOの時、設定された槽数での試験ができます。MANU 状態で他のボタンがクリック出来ます。

● 予備試験データ画面

- 予備試験画面で試験終了または中止後、各槽の詳細データボタンをクリックすると、この画面が表示されます。予備試験10分間のデータを1分単位で表示します。
第1槽から第9槽までの画面があります。
- 0分のデータおよび10分のデータは成績表作成時、様式第34号の10分前、確認時の値として使用されます。

■ 0分

試験開始時のデータ

■ 10分

試験開始後、10分後のデータ

■ 変化量

変化量 = (0分データ) - (10分データ)

■ 戻るボタン

クリックすると予備試験画面に戻ります。

■ プリントボタン

この画面をプリントアウトする時クリックします。

検査プログラム
2017.09.05 14:30

第1槽 [予備試験データ]

時間分	計測圧力 kPa abs.	補正圧力 kPa abs.	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
0	94.773	94.773	28.02	26.26	27.14
1	94.773	94.771	28.02	26.28	27.15
2	94.770	94.765	28.02	26.29	27.16
3	94.778	94.770	28.03	26.29	27.16
4	94.760	94.751	28.03	26.30	27.17
5	94.760	94.750	28.04	26.31	27.17
6	94.760	94.748	28.05	26.31	27.18
7	94.773	94.758	28.05	26.32	27.19
8	94.773	94.756	28.06	26.32	27.19
9	94.773	94.755	28.06	26.33	27.19
10	94.780	94.761	28.06	26.34	27.20
変化量	-0.008	0.011	-0.05	-0.07	-0.06

戻る プリント

Gデータ 前頁 次頁

■ ゲージ圧データボタン

クリックすると予備試験ゲージ圧データ画面に移行します。

■ 次頁、前頁ボタン

1槽から9槽までの試験データを順次表示します。

● 予備試験ゲージ圧データ画面

- ・ 予備試験データ画面でゲージ圧データボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- ・ 表示されるデータは予備試験終了時から10分前までのデータです。

検査プログラム

[予備試験ゲージ圧データ]

時間分	1槽 kPa	2槽 kPa	3槽 kPa	4槽 kPa	5槽 kPa	6槽 kPa	7槽 kPa	8槽 kPa	9槽 kPa
0	-008	0.030	====	====	====	====	====	====	====
1	-008	0.030	====	====	====	====	====	====	====
2	-010	0.030	====	====	====	====	====	====	====
3	-013	0.030	====	====	====	====	====	====	====
4	-010	0.030	====	====	====	====	====	====	====
5	-010	0.030	====	====	====	====	====	====	====
6	-010	0.030	====	====	====	====	====	====	====
7	-008	0.033	====	====	====	====	====	====	====
8	-008	0.030	====	====	====	====	====	====	====
9	-008	0.030	====	====	====	====	====	====	====
10	-010	0.030	====	====	====	====	====	====	====

戻る プリント

■ 戻るボタン
クリックすると予備試験画面に戻ります。

■ プリントボタン
この画面をプリントアウトする時クリックします。

● 予備加圧画面

- 各試験槽を5kPa まで加圧し、その後 AUTO の場合には自動で漏れ試験を行ないます。
- 加圧が10分以内で終了した時、“加圧正常終了”と表示されます。10分以内で5kPa に達しない時は、“加圧異常”と表示され、自動的に漏れ試験に移行しません。
- 漏れ試験の判定条件
1分間の圧力降下量が0.1kPa 以内になった時、OK とします。試験時間は OK と判定されるまで最大15分間継続します。
- 複数車両の時、各車両毎に太線で分けられます。
- MANU 状態では、各槽弁をクリックしてハイライト(黒い状態)とした後、“開始”すると、その指定した槽のみ加圧(試験)することができます。範囲は、初期設定で設定した槽数の内です。この方法を用いますと、異常のあった槽を単独に、重点的に試験することが可能です。尚、各槽弁は繰返しクリックできますので、指定した後除外、もしくは除外した後指定するといった事もできます。漏れ計測についても同様に作業できます。各槽を指定後、“漏れ計測”をクリックして下さい。

■ 試験槽数

初期設定で設定した値を表示

■ 各槽ボタン

MANU 状態で加圧、試験槽の選択が出来ます。

■ 漏れ計測ボタン

MANU 状態で任意の圧力で漏れ計測が行なえます。加圧後は、AUTO の場合、自動的に漏れ計測が行なわれます。

■ 加圧正常、異常表示

■ 中止ボタン

加圧及び漏れ試験を中止します。

■ プリントボタン

この画面をプリントアウトする時クリックします。

試験槽数	試験圧力 kPa	圧力変化量 kPa	判定
1槽弁	5.143	0.100	OK
2槽弁	5.895	0.080	OK
3槽弁	=====	=====	---
4槽弁	=====	=====	---
5槽弁	=====	=====	---
6槽弁	=====	=====	---
7槽弁	=====	=====	---
8槽弁	=====	=====	---
9槽弁	=====	=====	---

■ 試験時間

漏れ試験の試験時間
max. 15分

■ 加圧時間

5.0kPa までの加圧時間
max.. 10分

■ 1分間の圧力変化量

■ 加圧開始ボタン

■ メニュー画面への戻りボタン

● 加圧処理画面

- 各試験槽を約20kPaまで加圧します。
- 加圧のステップは5kPa、10kPa、15kPaと各槽間に圧力差がつかないように各槽の弁をコントロールしながら加圧します。最後のステップとして、加圧設定圧力を奇数槽は19.5kPa、偶数槽は20.2kPaを目標に槽間差を付け加圧します。
- 加圧が35分以内で終了した時、“加圧正常終了”と表示されます。35分以内に19.5、20.2kPaに達しない時は、“加圧異常”と表示されます。また加圧中いずれかの槽が21.5kPa以上になった場合は即時加圧を停止し、“加圧異常”と表示されます。この場合は過加圧の槽の圧力を21.0kPa以下まで手動で払い、この槽を除外してMANU状態で加圧し

て下さい。

- “槽間圧力異常”と表示が出た場合は、各槽間の最大差が8.0kPaを越えていることを表します。この場合は、検査槽の槽弁を開き各槽がつながり、圧力の高い槽から低い槽へ流れて槽間圧力差を小さくするように自動で動作します。この場合は、槽間圧力異常が発生する要因を取り除いた後、MANUまたはAUTOで加圧を再開して下さい。MANUの場合は現在選択されている槽について、AUTOの場合は初期設定画面で選択された槽について加圧が行なわれます。
- 複数車両の時、各車両毎に太線で分けられます。

検査プログラム
2017.09.05 14:51

2

[加圧処理]

大気圧 kPa_abs 94.790

加圧時間 9分

	平均温度 °C	試験圧力 kPa	加圧設定圧力 kPa
1槽弁	27.98	19.950	19.500
2槽弁	27.58	20.433	20.200
3槽弁	=====	=====	=====
4槽弁	=====	=====	=====
5槽弁	=====	=====	=====
6槽弁	=====	=====	=====
7槽弁	=====	=====	=====
8槽弁	=====	=====	=====
9槽弁	=====	=====	=====

元弁

EXH

1槽弁

2槽弁

3槽弁

4槽弁

5槽弁

6槽弁

7槽弁

8槽弁

9槽弁

加圧正常終了

中止

プリント

初期設定

予備試験

予備加圧

加圧処理

漏れ検査

成績作成

全自動

AUTO

MANU

開始

戻り

■加圧時間
19.5kPa、20.2kPa までの加圧時間
max. 35分

■加圧開始ボタン

■メニュー画面への戻りボタン

■加圧正常、異常表示

■中止ボタン
加圧または漏れ試験を中止します。

■プリントボタン
この画面をプリントアウトする時クリックします。

● 漏れ検査画面

- 各試験槽の漏れ検査を行ないます。
- 複数車両点検では、各車両毎に基準槽を判断し、漏れ判定を行ないます。また、車両毎に太線で区分けされています。
- 漏れ検査開始後20分間の静置時間を置き、その後40分後の平均温度と圧力の変化を計測します。

$$\Delta P_{40} = P_{20} - P_{60} \cdot \frac{T_{20}}{T_{60}}$$

ΔP_{40} : 40分間の温度補正圧力降下量 kPa
 P_{20} : 20分後の圧力測定値+大気圧 kPa abs
 P_{60} : 60分後の圧力測定値+大気圧 kPa abs.
 T_{20} : 20分後のタンク平均温度 測定値+273.15° K
 T_{60} : 60分後のタンク平均温度 測定値+273.15° K

【判定条件】

- 単槽加圧の時:
 - $\Delta P_{40} \leq 0.2 \text{ kPa}$ の時…………… OK
 - $0.2 \text{ kPa} < \Delta P_{40} \leq 0.4 \text{ kPa}$ の時…… ◆(再試験)
 - $\Delta P_{40} > 0.4 \text{ kPa}$ の時…………… NG

・多槽同時加圧の時

各槽の ΔP_{40} の最小値を ΔP_{\min} とし基準槽とする。各槽ごとの比較値

$$P_c = \Delta P_n - \Delta P_{\min}$$

- ΔP_n : 基準槽以外のタンク室の温度補正圧力降下量 kPa
- ΔP_{\min} : 基準槽の温度補正圧力降下量 kPa
- $\Delta P_{\min} \leq 0.2 \text{ kPa}$ で $P_c \leq 0.2 \text{ kPa}$ の時…………… OK
- $\Delta P_{\min} \leq 0.2 \text{ kPa}$ で $0.2 \text{ kPa} < P_c \leq 0.4 \text{ kPa}$ の時…………… ◆(再試験)
- $0.2 \text{ kPa} < \Delta P_{\min} \leq 0.4 \text{ kPa}$ で $P_c \leq 0.2 \text{ kPa}$ の時…………… ◆(再試験)
- 上記以外…………… NG

■ 槽間圧力異常

■ 各槽ボタン

MANU 状態で試験槽の選択が出来ます。

■ 過大試験圧力、試験圧力低下表示

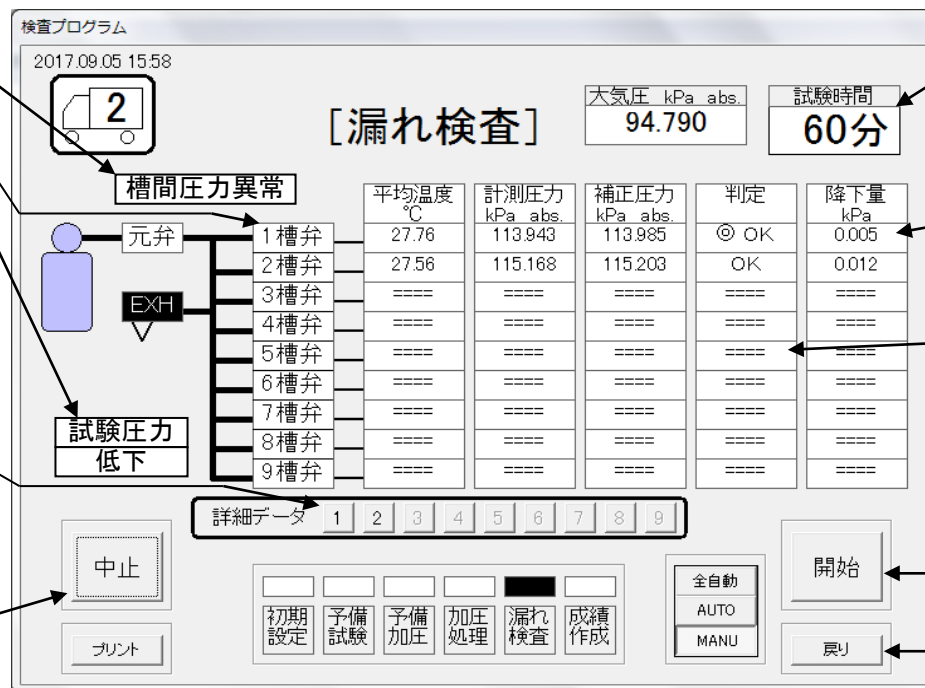
試験圧力 P が変動し、 $P > 21 \text{ kPa}$ または $P < 18 \text{ kPa}$ の場合に表示します。尚、試験は中止せず継続します。

■ 詳細データボタン

試験終了または中止後、MANU 状態で、このボタンをクリックすると、各槽60分間の漏れ検査トレンドデータの画面に切り換わります。

■ 中止ボタン

漏れ検査を中止します。



■ 試験時間

60分後に OK が出ない時、引続き max. 100分まで検査を継続します。

■ 降下量

20分後を基準にした補正圧力の降下量

■ 判定

OK、NG、◆(再試験)と漏れ検査の結果を表示します。◎は基準槽です。20分迄は、変化量として試験開始0分を基準とした補正圧力の降下量を表示します。

■ 漏れ検査開始ボタン

■ メニュー画面への戻りボタン

● 漏れ検査データ画面

- ・ 漏れ検査画面で試験終了または中止後、各槽の詳細データボタンをクリックするとこの画面が表示されます。

漏れ検査60分間のデータを5分単位で表示します。
第1槽から第9槽までの画面があります。

- ・ このデータは、成績表作成時、様式第33号および第34号の試験データとして使用されます。

検査プログラム
2017.09.05 18:00

第1槽 [漏れ検査データ]

圧力降下量 0.018 kPa

時間分	計測圧力 kPa abs.	補正圧力 kPa abs.	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
0	114.145	114.101	29.07	26.86	27.97
5	114.073	114.042	29.02	26.84	27.93
10	114.033	114.013	28.96	26.83	27.90
15	114.005	113.996	28.92	26.82	27.87
20	113.995	113.995	28.88	26.82	27.85
25	113.970	113.977	28.85	26.81	27.83
30	113.958	113.971	28.82	26.80	27.81
35	113.943	113.961	28.80	26.80	27.80
40	113.958	113.981	28.77	26.80	27.79
45	113.930	113.957	28.75	26.80	27.78
50	113.933	113.962	28.74	26.80	27.77
55	113.940	113.974	28.72	26.79	27.76
60	113.943	113.977	28.72	26.79	27.76
変化量	0.202	0.124	0.35	0.07	0.21

戻る プリント Gデータ 前頁 次頁

■ 0分
試験開始時のデータ

■ 60分
試験開始後 60 分後のデータ

■ 変化量
変化量 =
(0 分データ) - (60 分データ)

■ プリントボタン
この画面をプリントアウトする時クリックします。

■ 戻るボタン
クリックすると漏れ検査画面に戻ります。

■ 圧力降下量
ΔP₄₀の値
$$\Delta P_{40} = P_{20} - P_{60} \cdot \frac{T_{20}}{T_{60}}$$

■ ゲージ圧データボタン
クリックすると漏れ検査ゲージ圧画面に移行します。

■ 次頁、前頁ボタン
1槽から9槽までの試験データを順次表示します。

● 漏れ検査ゲージ圧データ画面

- ・ 漏れ検査データ画面でゲージ圧データボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- ・ 表示されるデータは、試験開始から60分経過するまでの5分毎のゲージ圧データです。

検査プログラム

[漏れ検査ゲージ圧データ]

時間 分	1槽 kPa	2槽 kPa	3槽 kPa	4槽 kPa	5槽 kPa	6槽 kPa	7槽 kPa	8槽 kPa	9槽 kPa
0	19.355	20.625	====	====	====	====	====	====	====
5	19.283	20.525	====	====	====	====	====	====	====
10	19.243	20.473	====	====	====	====	====	====	====
15	19.225	20.448	====	====	====	====	====	====	====
20	19.205	20.433	====	====	====	====	====	====	====
25	19.190	20.413	====	====	====	====	====	====	====
30	19.188	20.408	====	====	====	====	====	====	====
35	19.173	20.398	====	====	====	====	====	====	====
40	19.168	20.393	====	====	====	====	====	====	====
45	19.160	20.385	====	====	====	====	====	====	====
50	19.163	20.380	====	====	====	====	====	====	====
55	19.150	20.375	====	====	====	====	====	====	====
60	19.153	20.378	====	====	====	====	====	====	====

戻る プリント

■ プリントボタン
漏れ検査データを印刷する時
この画面を印刷する時
クリックします。

■ 戻るボタン
漏れ検査データ画面に戻ります。

●成績表作成への移動画面

- ・この画面から成績表作成の画面に移ります。

■払いボタン

各槽の圧力を払う時クリックします。成績表作成中に本器の排気口より各槽の圧力を抜くとき使用します。

元弁……クローズ(OFF)
排気弁……オープン(OFF)
各槽弁……オープン(ON)

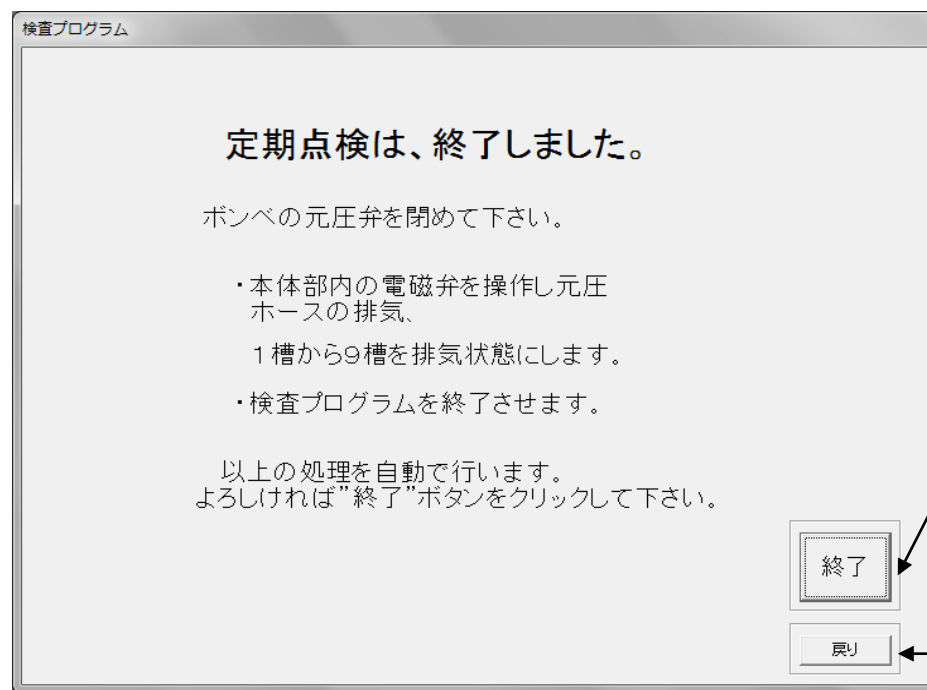


■成績表作成画面へ移ります。

■メニュー画面への戻りボタン

● 終了操作画面

- ・ メニュー画面の終了操作ボタンをクリックするとこの画面が表示されます。
- ・ 画面の説明内容を確認し、元圧弁を閉めて“終了”ボタンをクリックし検査プログラムを終了させて下さい。
- ・ 各槽弁はオープン(電磁弁ON状態)で各槽の排気状態を本器の電源OFFするまで継続しています。



■ 終了ボタン

検査プログラムを終了させます。
“払い”の動作状態になります。
元弁……クローズ(OFF)
排気弁……オープン(OFF)
各槽弁……オープン(ON)
本器の電源OFFまで、この状態が継続します。

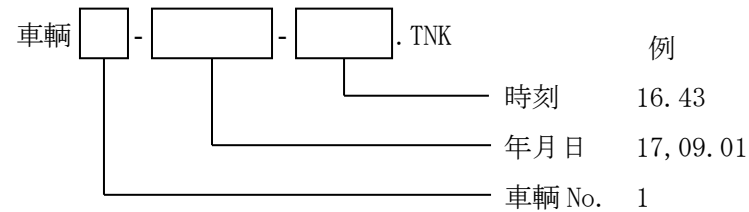
■ 戻りボタン

メニュー画面に戻ります。

6-2. 成績表作成の操作手順

- 「初期設定画面」で設定した車輌、槽数、容量、液種を“様式第32号設定”ボタンをクリックし設定します。
- その後、1車輌毎に様式第32号に必要な項目を「様式第32号設定画面」および「成績表作成画面」で設定後、1車輌毎に“成績表作成”ボタンで成績表を作成します。その後、車輌毎に成績表の全プリントを行なって下さい。
- “成績表作成”ボタンで成績表を作成した時、自動的に下記の定まったフォーマットのファイル名でハードディスク上に成績表が保存されます。保存されている成績表を後で表示・プリントアウトすることも出来ます。

自動的に保存されるファイル名



ハードディスク上に保存された成績表は、他の外部記憶装置にバックアップしておくことをお勧めします。

- 外部記憶装置へのバックアップ方法

基本的な操作手順を以下に説明します。

① “様式第32号設定” ボタンをクリックする。

1 車輦目

② 「様式第32号設定画面」で必要事項を設定します。設定後、“戻り” ボタンで「成績表作成画面」に戻ります。

③ 報告書提出先、危険物施設などの必要事項を設定します。

④ “車輦” ボタン1～9をクリックし、これから成績表を作成する車輦を選択します。

⑤ “成績表作成” ボタンをクリックします。同時に所定のファイル名で成績表は保存されます。

⑥ “データ保存” ボタンで任意のファイル名で成績表の保存も行えます。（自動的に保存される所定のファイルを後で使う場合には不要。）

⑦ “全プリント” ボタンで成績表をプリントアウトします。（保存されたファイルを後で起動し表示・プリントすることも可能です。）

2 車輦目～9 車輦目

⑧ 上記②～⑦を繰り返します。

●成績表作成画面

- ・ 検査結果を基に成績表の作成、プリントアウト、成績表の保存を行ないます。全成績表は、A4 サイズの用紙にて、必要な内容が全て盛り込まれた状態でプリントされます。
- ・ この画面が初めて表示された時は、以前の成績表の内容が残っています。“様式第32号設定”ボタン、“車輛”ボタン、“成績表作成”ボタンをクリックすることにより試験されたデータより成績表を作成します。

- ・ 様式第32号に必要な設定項目の一部を、この画面で設定します。事業所コード入力機能が付いています。(コード入力プログラム参照)

■コードボタン

クリックすることによりコード入力が可能となります。再度クリックするとコード入力ができなくなります。

■コード入力が可能の時に表示

コード番号(数字)を入力し、“エンター”キーを押すことにより対応した事業所名・所在地が自動的に入力されます。

■事業所コード表初期画面に移ります。

■終了ボタン

成績表作成を終了する時にクリックします。

■データ保存ボタン

作成した成績表をフォルダとファイル名を指定してハードディスクに保存する時にクリックします。

■全プリントボタン

現在作成されている車輛の様式第32、第33、第34 全ての成績表をプリントアウトします。

■車輛ボタン

複数車輛の時、クリックし車輛を選択して成績表を作成します。

■各車輛の試験槽数表示

■成績表作成ボタン

様式第32、第33、第34 全ての成績表を車輛ボタンで選択されている車輛の成績表を作成します。結果は所定のファイル名でハードディスクに保存されます。

■メニュー画面への戻りボタン

■各様式ボタン

各様式の個別の確認及び個別のプリントをする時、クリックします。選択されている様式は、白黒反転表示

■様式第32号設定ボタン

様式第32号設定画面へ移動します。初期設定を行なった試験槽数、最大タンク容量、各槽、容量、液種を設定します。

■個別様式確認ボタン

■個別様式プリントボタン

検査プログラム

成績表作成

コード表へ

報告書提出先	長野計器株式会社		
危険物事業所名	丸子電子機器工場		
施設所在地	上田市御岳堂2480		
コード			
タンク検査済証	ABC-1234号	平成 26 年 9 月 18 日	
検査行政機関名	長野県危険物安全協会		
点検年月日	平成 29 年 9 月 5 日		
報告書作成日	平成 29 年 9 月 5 日		
点検方法	<input type="radio"/> 単槽 <input checked="" type="radio"/> 多槽		
点検済証番号	いろはー12345		
次期点検年月	平成 34 年 9 月 5 日まで		
天気	晴れ		

終了

Drive
データ保存

全プリント

MENUへ

車輛槽数	1	←	3	4	5	6	7	8	9
	2	←							

様式第32号設定

成績表作成

個別様式確認

個別様式プリント

●様式第32号設定画面

- ・ 成績表作成画面で設定する以外の様式第32号に必要な内容をこの画面で入力します。以前の内容は保持されていますので、必要部分の入力のみで行なえます。
- ・ NZ84の各槽に対応した車輛毎の槽番号, 容量, 液種, 槽数, 最大容量が表示されています。

検査プログラム

様式第32号設定

試験槽	車輛No.	各車輛槽	容量k ℓ	液種	槽数	最大容量
1槽	1	1	4	ガンリン		
2槽	1	2	2	軽油		
3槽						
4槽						
5槽						
6槽						
7槽						
8槽						
9槽					2	6

点検実施事業者

名称	ナガノ計装		氏名	石川 安		修了証番号	移第 1234号		危険物取扱者免状	あ 種第 A 類第 5678号	
所在	長野県上田市富士山 2416番27		点検者			移第	号		種第	類第 号	
電話番号	0268-38-8353		立会者	手塚 真太		危険物免状	有 い		種第	類第 0123号	
認定番号	A-1234										

戻り

■ 車輛・槽に関する内容

「初期設定画面」で入力した各槽に関する内容は、「成績表作成画面」の“様式第32号設定”ボタンをクリックすることにより自動的に入力されます。また、この画面上で個々に入力することも出来ます。各車輛毎に太線にて区分されています。

■ 成績表作成画面に戻ります。

●様式第32号画面

- ・ 成績表作成画面から「様式第32号 結果報告書」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- ・ 備考欄などの入力および修正は、画面上で入力することができます。

■ 次の成績表画面への移動ボタン

■ 前の成績表画面への移動ボタン

■ この画面全体をプリントするボタン

■ 成績表作成画面への移動ボタン

検査プログラム

様式第32号 (第27条関係)

移動貯蔵タンク定期点検実施結果報告書

長野計器株式会社 様 平成 29 年 9 月 5 日

点検実施事業者
 認定番号 A-1234
 所 在 長野県上田市富士山2416番27
 名 称 ナガノ計装 印
 電話番号 0268-38-8353

消防法第14条の3の2に基づく、移動タンク貯蔵所の定期点検のうち、移動貯蔵タンクの気密構造(水圧試験に係る部分)に係る異常の有無を確認しましたので、次のとおり報告いたします。

危険物	事業所名	丸子電子機器工場			
施設	所在地	上田市御岳堂2480			
タンク検査済証番号	第 ABC-1234 号	検査年月日	平成 26 年 9 月 18 日	検査行政機関名	長野県危険物安全協会
タンク最大容量	6000 L	タンク槽数	2 槽		
点検実施者	氏 名	表任者:	石川 安		
	講習修了証番号	移第	1234号	移第 号 移第 号	
	危険物取扱者免状	あ 種第 A 類第	5678号	種第 類第 号 種第 類第 号	
点検実施年月日	平成 29 年 9 月 5 日 (天候 晴れ)				
点検方法	1. 単槽ガス加圧 2. 多槽ガス加圧 3. 液体加圧法 4. 直接法				
	第 1 槽	4 KL (液種: ガソリン)	異常: 有・		

検査プログラム

戻る プリント ◀ ▶ ▼ ▾ ≡

■ 画面上、中、下 移動ボタン
成績表の上、中、下部の内容が画面に表示されます。

●様式第33号画面

- 成績表作成画面から「様式第33号 結果一覧表」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表れます。
- 報告書用紙右上に点検年月日、タンク検査済証番号、右下には点検実施者が記入されます。

検査プログラム

点検年月日 平成 29 年 9 月 5 日
タンク検査済証 第 ABC-1234 号

様式第33号 (第27条関係)

移動貯蔵タンク定期点検実施結果一覧表

槽番号	20分後		60分後		圧力降下量 kPa	多槽同時加圧			基準槽との 圧力差 kPa	漏えいの 有・無	
	計測圧力		平均温度 ℃	補正圧力 kPa abs.		平均温度 ℃	1 回目	2 回目			3 回目
	ゲージ圧 kPa	絶対圧 kPa abs.									
第1槽	19.205	113.995	27.85	113.977	27.76	0.018	◎		0.000	有 ●	
第2槽	20.433	115.223	27.84	115.199	27.56	0.024	○		0.008	有 ●	
第3槽										有 無	
第4槽										有 無	

検査プログラム

戻る プリント ⏪ ⏩ ⏴ ⏵ ⏶ ⏷

●様式第34号画面

- 成績表作成画面から「様式第34号 データ及び経過表 第 1--第 9 槽」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表れます。
- 第1槽から第9槽の画面があります。
- 報告書用紙右上に点検年月日、タンク検査済証番号、右下には点検実施者が記入されます。

点検年月日 平成 29 年 9 月 5 日
タンク検査済証 第 ABC-1234 号

様式第34号 (第27条関係)

移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表

<移動貯蔵タンク定期点検実施データ表 (ガス加圧法)>
第 1 槽 容量: 4 KL 液種 ガソリン

計測時間	計測圧力		補正圧力 kPa abs.	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
	ゲージ圧 kPa	絶対圧 kPa abs.				
10分前	-0.08	94.773	94.773	28.02	26.26	27.14
確認時	-0.010	94.780	94.781	28.06	26.34	27.20
0分	19.355	114.145	114.101	29.07	26.86	27.87
5分後	19.283	114.073	114.042	29.02	26.84	27.83
10分後	19.243	114.033	114.013	28.96	26.83	27.90
15分後	19.225	114.005	113.996	28.92	26.82	27.87
20分後	19.205	113.985	113.995	28.88	26.82	27.85
25分後	19.190	113.970	113.977	28.85	26.81	27.83
30分後	19.183	113.958	113.971	28.82	26.80	27.81

検査プログラム

戻る プリント

6-3. 保存された成績表からの操作手順

- 保存された成績表のファイル(プログラム)を起動することにより、その成績表を表示・プリントアウトすることができます。また必要に応じて、その成績表の設定等を修正し新たに成績表を作成し新しいファイルとして保存することができます。
- 事業所コード表プログラムも使用することができます。

●成績表ファイル画面（保存された成績表）

- ・ 保存された成績表のファイル(プログラム)を起動した時この画面が表示されます。保存されていた成績ファイルの確認・プリントができます。
- ・ 様式第32号の設定内容の変更が必要なとき、新たな成績表を作成し同一ファイル名で保存することができます。
- ・ 検査プログラムの成績表作成画面との相違は、初期設定画面のデータおよび試験データが入力できません。また、新たに別ファイル名で保存することはできません。
- ・ 保存された成績表の様式第34号は、試験槽数分のみとなっています。
- ・ この画面が初めて表示された時は、開いた成績表ファイルの成績表の内容が表示されます。様式第32号設定画面の設定変更を行ない、“成

- 績表作成”ボタンをクリックすることにより、新たに成績表を作成します。
- ・ 全成績表は、A4 サイズの用紙で、必要な内容が全て盛り込まれた状態でプリントされます。
- ・ 成績表作成後は、“終了”ボタンをクリックし、プログラムを終了します。

■ 試験総数

■ 各様式ボタン
各様式の個別の確認及び個別のプリントをする時、クリックします。選択されている様式は、白黒反転表示

■ 様式第32号設定画面へ移るボタン
各様式ごとの確認及びプリントは、上の用紙をクリックして下さい。

■ プログラムバージョン表示

■ 保存された成績表のファイル名

■ 終了ボタン
プログラムを終了するときをクリックします。

■ 全プリントボタン
現在作成されている車輜の様式第32、第33、第34 全ての成績表をプリントアウトします。

■ 個別様式確認ボタン

■ 個別様式プリントボタン

■ 成績表作成ボタン
様式第 32 号設定を反映させ、新たに成績表を作成し保存されます。

●様式第32号設定画面（保存された成績表）

- 成績画面で“様式第32号設定画面へ”をクリックすると、この画面が表示されます。
 - 様式第32号に必要な内容をこの画面で入力します。開いた成績表ファイルの内容になっていますので、必要部分の入力のみで行なえます。
 - 文字の入力方法
 - マウスを移動し、文字を選択する方法
マウスを移動し、クリックすることによりカーソルの位置が決まります。ダブルクリックすることにより文字列全体が選択されます。
 - “TAB”キーを押し、順次項目毎の文字を選択する方法
- ①、②の方法で選択し、その後、文字を入力します。

■単槽、多槽ボタン

試験槽数により自動的に設定されます。

■コードボタン

クリックすることによりコード入力が可能となります。再度クリックするとコード入力が可能となります。

■コード入力が可能の時に表示
コードNo.(1~200)を入力し、“エンター”キーを押すことにより対応した No.の事業所名、所在地が自動的に入力されます。

検査プログラム

様式第32号設定

報告書提出先 長野計器株式会社 殿

危険物事業所名 丸子電子機器工場

施設所在地 上田市御岳堂2480

コード

タンク検査済証 ABC-1234号 / 平成 26年 9月 18日

検査行政機関名 長野県危険物安全協会

点検年月日 平成 29年 9月 5日

報告書作成日 平成 29年 9月 5日

点検方法 単層 多層

点検済証番号 いろはー12345

次期点検年月 平成 34年 9月 5日まで

点検実施事業者 天候 曇りのち晴れ

名称	ナガノ計装	氏名	修了証番号	危険物取扱者免状
責任者		石川 安	移第 1234号	あ 種第 A 類第 5678号
点検者			移第 号	種第 類第 号
立会者		手塚 真太	移第 号	種第 類第 号
危険物免状		有	い	種第 B 類第 0123号

槽数

最大容量 kL

槽	容量kL	液種
1槽	4	ガソリン
2槽	2	軽油
3槽		
4槽		
5槽		
6槽		
7槽		
8槽		
9槽		

事業所コード表へ 戻り

■槽に関する内容

この画面上で個々に入力、修正することもできます。

■事業所コード表初期画面に移ります。

■成績表ファイル画面に戻ります。

●様式第32号画面（保存された成績表）

- ・成績表ファイル画面から「様式第32号 結果報告書」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- ・備考欄などの入力および修正は、画面上で入力することができます。

■ 次の成績表画面への移動ボタン

■ 前の成績表画面への移動ボタン

■ この画面全体をプリントアウトボタン

■ 成績表ファイル画面への移動

検査プログラム

様式第32号（第27条関係）
移動貯蔵タンク定期点検実施結果報告書

長野計器株式会社 様 平成 29 年 9 月 5 日

点検実施事業者
認定番号 A-1234
所 在 長野県上田市富士山2416番27
名 称 ナガノ計装 印
電話番号 0268-38-8353

消防法第14条の3の2に基づく、移動タンク貯蔵所の定期点検のうち、移動貯蔵タンクの気密構造（水圧試験に係る部分）に係る異常の有無を確認しましたので、次のとおり報告いたします。

危険物	事業所名	丸子電子機器工場			
施設	所在地	上田市御岳堂2480			
タンク検査済証番号	第 ABC-1234 号	検査年月日	平成 28 年 9 月 18 日	検査行政機関名	長野県危険物安全協会
タンク最大容量	6000 L	タンク槽数	2	槽	
点検実施者	氏 名	責任者:	石川 安		
	講習修了証番号	移第	1234号	移第	号
	危険物取扱者免状	あ 種第 A 類第	5678号	種第 類第	号
点検実施年月日	平成 29 年 9 月 5 日（天候 曇りのち晴れ）				
点検方法	1. 単槽ガス加圧 2. 多槽加圧 3. 液体加圧法 4. 直接法				
	第1槽	4	KL	（液種： ガソリン）	異常：有・

検査プログラム

戻る プリント ◀ ▶ ▼ ▾ ≡

■ 画面 上、中、下 移動ボタン
成績表の上、中、下部の内容
が画面に表示されます。

●様式第33号画面（保存された成績表）

- 成績画面から「様式第33号 結果一覧表」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- 報告書用紙右上に点検年月日、タンク検査済証番号、右下には点検実施者が記入されます。

検査プログラム

点検年月日 平成 29 年 9 月 5 日
タンク検査済証 第 ABC-1234 号

様式第33号 (第27条関係)

移動貯蔵タンク定期点検実施結果一覧表

＜移動貯蔵タンク定期点検実施結果一覧表（ガス加圧法）＞

槽番号	20分後			60分後		圧力 降下量 kPa	多槽同時加圧			基準槽 との 圧力差 kPa	漏えい の有・無
	計測圧力		平均温度 ℃	補正圧力 kPa abs.	平均温度 ℃		1 回目	2 回目	3 回目		
	ゲージ圧 kPa	絶対圧 kPa abs.									
第1槽	20.123	114.913	27.12	114.896	27.07	0.017	○			0.009	有 無
第2槽	20.490	115.280	26.89	115.272	26.87	0.008	◎			0.000	有 無
第3槽											有 無
第4槽											有 無

検査プログラム

戻る プリント ◀ ▶ ▼ ▾ ≡

●様式第34号画面（保存された成績表）

- ・成績画面から「様式第34号 結果一覧表」を選択し、個別様式確認ボタンをクリックすると、この画面が表示されます。
- ・第1槽から試験時の総数分の画面があります。
- ・報告書用紙右上に点検年月日、タンク検査済証番号、右下には点検実施者が記入されます。

検査プログラム

点検年月日 平成 29 年 9 月 5 日
タンク検査済証 第 ABC-1234 号

様式第34号（第27条関係）

移動貯蔵タンク定期点検実施データ表及び経過表

<移動貯蔵タンク定期点検実施データ表（ガス加圧法）>
第 1 槽 容量： 4 KL 液種 ガソリン

計測時間	計測圧力		補正圧力 kPa abs.	上部温度 ℃	下部温度 ℃	平均温度 ℃
	ゲージ圧 kPa	絶対圧 kPa abs.				
10分前	18.910	113.700	113.700	27.69	26.50	27.10
確認時	18.910	113.680	113.685	27.68	26.49	27.09
0分	20.285	115.075	115.070	27.73	26.52	27.13
5分後	20.200	114.990	114.985	27.73	26.52	27.13
10分後	20.155	114.945	114.943	27.73	26.52	27.12
15分後	20.138	114.928	114.926	27.73	26.51	27.12
20分後	20.123	114.913	114.913	27.72	26.51	27.12
25分後	20.108	114.898	114.901	27.71	26.50	27.11
30分後	20.103	114.893	114.898	27.70	26.50	27.10

検査プログラム

戻る プリント ◀ ▶ ▼ ▾ ≡

7. 事業所コード表プログラム

事業所コード表プログラムは、このプログラムを最初に起動した時に表示される初期画面と実際に事業所の名称と所在地、TEL、FAX 番号を設定する事業所コード表 1/8～8/8 の画面で構成されています。

7-1. 特徴・機能

- 検査プログラムの成績表作成において、危険物施設の事業所名、所在地をあらかじめ『事業所コード表』に設定したコードNo.(1～200)を入力することにより、事業所名、所在地を画面に書き込むことができます。事業所コード表 1/8～8/8 の画面では1画面当り25社登録でき、全体で200社まで登録が可能です。
- 事業所コード表に登録する時は、事業所コード表プログラムを起動する方法と、もう一つ検査プログラム(後述)の成績表作成画面の“コード表へ”ボタンをクリックして移動する方法があります。
1度『事業所コード表』に事業所名、所在地を登録しておけば、以後の成績表作成の設定作業が楽に行なえます。
- 直接事業所コード表プログラムを起動した場合“戻り”ボタンで検査プログラムに戻ることはできません。

●事業所コード表画面

- ・ 事業所コード表プログラムを起動した時の初期設定画面です。
- ・ 事業所コード表 1/8～8/8 画面へ移動、プリント及び全プリントが行えます。
- ・ コードNo.は、200まで設定出来ます。連続して設定する必要はないので1/8～8/8画面で判り易い様に分類して設定することが出来ます。
- ・ コード表は、プリントして使用することをお勧めします。画面の移動が少なくて済み、早く設定することが出来ます。

■各コード表ボタン
1/8から8/8の何れかのコード表を選択します。

■個別表の確認ボタン
選択されているコード表の事業所コード入力画面を表示する。

■個別表のプリントボタン
選択されているコード表をプリントします。

■プログラムバージョン表示
Ver. 2.0.0

■終了ボタン
全てのプログラムを終了します。

■全プリントボタン
全コード表をプリントします。

■戻りボタン
成績表作成画面または様式第32号設定画面(2)に戻ります。直接事業所コード表プログラムを起動した場合は無効です。

・各コード表ごとの入力・確認及びプリントは、上のボタンをクリックして下さい。

●事業所コード表入力画面

- ・ この画面は、1/8～8/8まで全部で8画面あります。
- ・ コード No.(1～200)に対応した危険物施設の事業所名、住所、TEL、FAX.番号をこの画面で設定します。
- ・ 検査プログラムにおける成績表作成の様式第 32 号設定画面でコード No.を入力することにより、この画面で設定された事業所名、住所が入力されます。

事業所コード表 (1/8) 2017.09.05

No.	事業所名	住所	tel. FAX. No.
1	株式会社 ナガノ計装	長野県上田市富士山2416番	tel. 0268-38-8353 FAX. 0268-38-8609
2			tel. FAX.
3			tel. FAX.
4			tel. FAX.
5			tel. FAX.
6			tel. FAX.
7			tel. FAX.
8			tel. FAX.
9			tel. FAX.
10			tel. FAX.
11			tel. FAX.
12			tel. FAX.

■前の成績表画面への移動ボタン

■次の成績表画面への移動ボタン

■この画面全体をプリントアウトボタン

■事業所コード表初期画面に戻るボタン

■画面 上、中、下 移動ボタン
コード表の上、中、下部の内容が
画面に表示されます。

サービス先、メモ

購入・修理・定期点検・サービス業務は

株式会社ナガノ計装 へ

URL <http://www.nagano-keiso.co.jp>

本社・東京営業所

〒143-0022 東京都大田区東馬込1丁目30番4号
(長野計器ビル)

TEL 03 (5718) 3281

計測器校正サービスセンター

〒386-0412 長野県上田市富士山2416番27

TEL 0268 (38) 8353

千葉営業所 0436 (21) 7899

名古屋出張所 052 (932) 6333

大阪出張所 06 (4306) 7676

九州出張所 092 (572) 5067

== メモ ==
